



謹賀新年

皆様方には輝かしい新春を健やかに迎えのことに、心からお慶び申し上げます。また、平素より、西条市連合自治会の活動に対しまして、ご理解とご協力を賜り心からお礼申し上げます。本年も自治会活動にご協力の程よろしくお願いたします。

西条市連合自治会 役員一同

西条市連合自治会役員紹介



会長
難波江 覚
(東予支部長)



副会長
徳増 稚養一
(西条支部長)



副会長
福田 昭芳
(丹原支部長)



副会長
渡邊 博俊
(小松支部長)



会計
小林 康人
(西条支部)



監事
徳永 光
(東予支部)



監事
杉原 益男
(丹原支部)

★西条市の自治会加入率 (令和5年6月1日現在)

地区名	自治会数	総世帯数	自治会加入世帯数	自治会加入率 (%)
西条	344	26,697	14,011	52.48
東予	118	13,686	8,805	64.34
丹原	32	5,183	3,543	68.36
小松	27	3,805	2,347	61.68
西条市計	521	49,371	28,706	58.14

令和5年度
総務大臣表彰 自治会等
地縁による団体功労者
おめでとうございます



渡部 武志 様(徳田)
徳能自治会長



安藤 功 様(丹原)
池田自治会長

西条市連合自治会の活動

西条市連合自治会総会を開催しました

令和5年7月3日、西条市役所において西条市連合自治会総会を開催しました。議事の審議のほか、自治会功労者への表彰(会長表彰、会長感謝状)が行われました。

○会長表彰 おめでとうございます (自治会長等に10年以上在職)

矢野 武彦 様(飯岡) 徳増 稚養一 様(神戸)
高橋 重松 様(氷見) 藤田 義規 様(西条)
河上 修一 様(西条) 一色 和成 様(多賀)
越智 真也 様(壬生川)



○会長感謝状 おめでとうございます (自治会長等に5年以上在職)

伊藤 昌文 様(大町) 坂東 君良 様(大町)
伊藤 博美 様(大町) 伊藤 哲義 様(神拝)
越智 テル子 様(神拝) 伊藤 龍二 様(神戸)
檜垣 喜志男 様(多賀) 森川 厚 様(多賀)
矢野 哲郎 様(壬生川) 山田 昭二 様(庄内)
長井 昭次 様(庄内) 大亀 幸美 様(中川)
杉原 益男 様(丹原) 越智 敏夫 様(桜樹)



表彰式にご出席いただいた皆様

〔越智 テル子様、森川 厚様、杉原 益男様
河上 修一様、越智 真也様〕

未来に伝えたい、伝統文化、自然

■ 「限りあるもの。そして、つながりゆくもの。」

おおぶき
大保木地区連合自治会
(旧西条市の山間部)

ここ大保木地区は瀬戸内海から道前平野を抜け、霊峰石鎚につながる表参道途次の急峻な山麓にあって、現在、世帯数77戸、人口128名（令和5年10月31日時点）の限界集落と呼ばれて久しい地域であるが、その歴史はお山と共にヒト、モノ、カネの交流を軸に栄枯盛衰を経てきた。今日、令和5年の師走、私はその限りない未来へとつなぎ、残したいものは何だろうかと思いを巡らしている。

その第一は霊峰石鎚に集う人々の祈りと自然が織りなす文化や伝統だろう。霊峰石鎚山のもたらす豊かな恩恵は、千三百有余年のつながりを刻みつつ、水都西条と共に限りない未来へと続くはずである。その根底に流れる人々の穏やかさと進取の気概や律儀、勤勉、辛抱強さは360年前の銀納義民たちが、世のため人のためと命がけで訴えた行動に集約されるだろう。それは今もコツコツと語り継がれ、人々をつなぐ心となり支えている。

そして、山間を流れる加茂川の清流と青石群、地区最奥、東之川の石積みとお樽の滝、東之川と西之川地区を結ぶ土木学会選奨土木遺産の架け橋「大宮橋」、石鎚登山ロープウェイ下谷駅近くにある市の文化遺産「ひまや」、護持する人もなく、寂しく佇む大小の神社や仏堂、その昔、千野々銀座と呼ばれ様々な商店や旅館が集積する中奥地区と銀納義民のリーダーである治兵衛さん以下16名の義民を祀る治兵衛堂、廃寺となった石鎚山旧跡天河寺とその法灯を継承する極楽寺や坂中寺と光昌寺、黒瀬湖と共に沈み望郷の思いを湖底に残す里山黒瀬地区、その下流にある兎之山地区を流れる加茂川は、逆さま川と呼ばれる景勝地である。

教育の核となった小中学校の今は、石鎚ふれあいの里、大保木公民館となって地域住民や出身者の善き交流と社会教育の中核となっており、それらの施設で毎年行われる盆踊りの「太鼓踊り」や石鎚山麓同郷の集い「大保木会」、秋のふれあい運動会やお祭りは、人々が生きる喜びを実感する場でもある。

世の子ども達は、豊かな創造力や夢を持つことの喜びを象徴する尊い存在であるが、そんな子ども達が、今では数人の存在となり、若者達はその親御さんたちぐらいとなった現在、私どもは「限りあるもの。そして、つながりゆくもの。」をどう思い行動するのか。それが必ず限りない未来へ続くものと私は思う。

大自然の多様な生命の一つ一つに輝く光がある。人の生命も、ローソクが我が身を燃やしながら周りを明るくするように、限りある生命を全うしたいものである。

《 散りぬべき 時知りてこそ 世の中の 花も花なれ 人も人なれ 》 細川ガラシャ



大宮橋



治兵衛堂



太鼓踊り

■ 「丹原町の祭り」

丹原地区連合自治会

丹原上町（旧松山藩領）では、一つの自治会で御輿と楽車の両方を所有し運行していました。しかし、傷みが激しくなってきたため昭和40年頃にその姿を消し、昭和50年代初頭からは一時期子ども太鼓台の運行となりました。そして、平成になり、昔の祭りを覚えていた者達から御輿を復興させたいという機運が高まり、平成20年に西条市の蝙蝠團（へんぷくだん）の協力を得て現在の上町御輿楽車を復興させることができました。

上町では春は恵美須神社、秋は福岡八幡神社の例大祭で運行をしています。東日本大震災やコロナ禍で縮小運行になることはありましたが、無事に運行を続け令和5年に復興15周年を迎えることができました。今後も、時代の変化に対応しつつ、文化を継承していきたいです。



お祭りの様子（令和元年度）

未来に伝えたい、伝統文化・自然

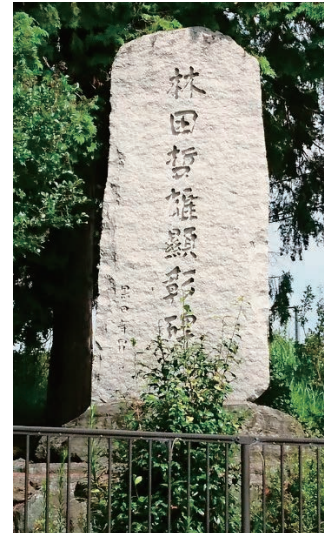
■「小松歴史散歩」

小松校区連合自治会

小松校区には、たくさんの見所がありますが、あまり知られていない場所もあります。国道11号小松交差点から、今治方面へ50メートルほど行った所にJR予讃線の高架橋があります。その左手前にこんもりとした木々が植わっています。その中に隠れるようにある人物の石碑が建っています。それが「林田哲雄 顕彰碑」です。「林田哲雄?」「だれ?」と言われる方も多いと思います。

林田哲雄は、大正から昭和初期に活躍した人物です。林田氏は、明治32年小松町の明勝寺(現温芳図書館)の次男として生まれ、寺を継ぐ為、京都の大谷大学に入学し、そこで、社会運動に参加するようになり、大正11年3月3日に創立された全国水平社創立大会に参加しました。その後、帰郷し、寺を継ぐ傍ら、愛媛県の水平社運動、農民運動を指導していきます。その間、厳しい思想統制と弾圧の下で、仲間と共に部落解放運動、耕作権運動に生涯を捧げた人物です。

石碑のそばを通る機会がありましたら、是非のぞいてみてください。



林田哲雄 顕彰碑

各地区自治会の活動紹介

■「こども防災キャンプ」

主催：楠河地区防災士連絡協議会 共催：楠河公民館・楠河地区連合自治会(旧東予市)

令和5年8月5日から一泊二日の日程で、自然災害時に楠河地域の緊急避難場所・避難所である楠河公民館・楠河小学校において、楠河小学校3～6年生の児童を対象に、「こども防災キャンプ」を開催しました。このイベントの目的は、地域の子供達に宿泊や防災学習などキャンプ体験を通して災害時の不便さを体験してもらうことで、「防災にどんなものがよいか」や「備えの大切さ」、「生き抜く力」を身に付けてもらうことです。

5日は、楠河小学校の運動場で自衛隊愛媛地方協力本部の方たちのご指導の下、宿営用のテント建てや、号令に合わせて動く基本教練を行いました。また楠河公民館では、自衛隊が緊急時に実際に使っている専用の止血用具を使用して止血方法を学んだり、長い棒と服で作る救助担架も体験しました。その後、市役所危機管理課、楠河地区防災士連絡協議会の皆さんによる防災学習会を行いました。避難時に必要となる「非常用持ち出し袋」について、何がよいか防災士の方々にアドバイスを受けながら班毎に考え、発表しました。どの班も「飲料水・食料」が非常に重要であることを理解していました。

夕食は楠河小学校の運動場、朝食はキャンプの宿泊場所楠河公民館で、災害時に電気・ガス等のライフラインが停止してしまった場合を想定して、火起こしをして釜でピザを焼いたり、牛乳パックを燃やすだけで作れるカートンドッグ作りや、アルファ米の試食をし、現在の非常食のクオリティの高さを実感することができました。また、夜には懐中電灯を頼りに、電気の消えた学校探検を行い、普段見慣れた場所でも暗闇では障害物に気づくのが遅れたり、何も見えなかったりすることを体感してもらいました。

実施後の参加者アンケートでは、「楽しかった。また参加したい」「地域の人との触れ合いが良かった」、「着衣水泳訓練やテント泊などの体験もしてみたい」「防災士としていろいろな手伝いができて良かった」といった意見がありました。今回の子ども防災キャンプを通して、一人一人の防災意識が少しでも向上してくれたら幸いです。



テント建ての様子



救助担架体験の様子



暗闇での学校探検の様子



西条市連合自治会の活動

■ 素敵な自治会長 佐藤良子先生による講演会の開催

令和5年10月31日、西条市中央公民館において、西条市連合自治会 自治会長研修会を開催しました。冒頭の難波江会長による開会挨拶の後、市内の事例発表として玉津校区連合自治会の藤田会長による事例発表が行われました。その後の基調講演では、講師に東京都立川市大山自治会の佐藤良子相談役を招へいし、「住民にとって魅力ある自治会活動とは～自治会の必要性和住民が困らないまちづくり～」をテーマとし、ご講演いただきました。

大山自治会は、東京都立川市北部に位置する大山団地の自治組織で、団地の入居者1480世帯(令和5年9月末時点)中、加入率100%を誇る自治会です。

講演では、主に「向こう3軒両隣」を基本としたコミュニティづくりで孤独死ゼロを維持されていることや、自治会運営に必要な「四本柱」と「五気力」について、お話しいただきました。

○自治会運営に必要な「四本柱」

- ①市(住民が主人公)
- ②能(能力や知恵のある人材バンク)
- ③工(工夫、アイデア)
- ④商(ビジネス)



参加者の様子



講演の様子

○自治会運営に必要な「五気力」

- ①元気
- ②陽気
- ③根気
- ④強気
- ⑤やる気

佐藤先生は、ご主人の代役で自治会の会議に出席された際に、当時の自治会の会計に不正があったことに憤りを感じられ、その後自ら役員に立候補し、自治会改革を行いました。住民から嫌がらせを受けても屈せず、会長5年目にして、自治会加入率100%を達成されたそうです。そのバイタリテイあふれるお姿に、会場の参加者も熱心に耳を傾けており、とても有意義な研修会でした。

<参加者の感想(一部抜粋)>

- 人とのつながりの大切さ、そして会話の大切さを知りました。その機会を作るのが自治会の働き方だと思いました。
- 佐藤先生の「自分たちの街を自分たちで守る」という考えと行動力が素晴らしい。そのためには、人と人とが知り合う機会を増やすことが大切だと教えられました。特に「孤独死問題」は喫緊の課題です。

■ 自治会に関するアンケートを実施しました

西条市連合自治会では、毎年市内の不動産関係のイベントにて自治会加入促進のための啓発活動を行っております。本年度は、今後の加入促進活動の参考とするため、9月23日の「秋の不動産フェア2023」、11月5日の「はとマルシェ」にて来場者を対象にアンケートを実施し、141名の方にご回答いただきました。

問) 自治会に加入して良かったことは何ですか？(一部抜粋)

- 地域及び周辺地域とのコミュニケーション、防犯等
- 案内等が回ってくるし交流が持てる
- 地域のことがよくわかり、関わりが持てる
- 地域の活動に参加することで知り合いが増え住みやすくなった
- 町がきれいになる ○ゴミの分別を手伝ってくれる
- 子育てに地域の人が協力、声掛けをしてくれるので助けてもらっている



不動産フェアの様子

問)自治会にどのような活動があれば良いと思いますか？(一部抜粋)

- 防犯・防災等の予防活動 ○子どもたちの活動を積極的に！！
- ご近所同士が集まれるようなことがあれば
- 食育など。地域の高齢者所有の畑などの耕作
- 困っている人の助けになるようなことができればいいと思う
- 地域の人が年代を超えて顔を合わせる機会(イベント)
- 負担の少ない気軽な交流会(参加自由なランチ会やごはん会等)



はとマルシェの様子